

- 1951 (昭和26)年 サンフランシスコ講和条約調印
- 1953 (昭和28)年 テレビ放送の開始
- 1956 (昭和31)年 国際連合に加盟
- 1957 (昭和32)年 ソ連が人工衛星の打ち上げに成功
- 1964 (昭和39)年 東海道新幹線開通/東京オリンピック開催



残っている部屋のカーテン

画家(1956年卒業)

田口 雅巳



緑濃い里山に赤い屋根、壁は薄めの黄色、窓には白いカーテン……今も目に浮かぶ私達の鎌高だ。教室からの眺めはいつも脱けを誘う長閑さ、周辺も今日のように家も店もなく、まだ134号線も未完成の静かな景色だった。一見、青春学園ドラマにぴったりの雰囲気にも思えたが、そんなドラマが、みんなの思い出の中にあるのだろうか？

陸上部にいた私は、ほとんど放課後はグラウンドにいたが、記録も伸びず、次第に美術部室に入り浸るようになっていた。二年生の時、ある公募団体展(東京都美術館)に入選、その通知を陸上部合宿中に受け取り「これを商売に……」と思いついた。

ところが、その展覧会場へ行ったら大きい作品ばかりで、8号を2枚つなぎ合わせた私の絵は、なんとも貧弱だ。「やっぱり100号位じゃなきゃ……」と思ったが、大きいキャンパスは高価でとても買えない。だが、美術室には白いカーテンがゆれていた。

高校美術展に絵を運ぶ風呂敷にとかなんとか言って持ち出し、安い材木で作った枠にカーテンを張り、亜鉛華粉をニカワで塗って立派なキャンパスが二つ出来た。それに描いた一点が今も手許に残っている。その頃は「モラルを上回る創作意欲……」なんてイキがってたが、ちょっとは気がひけた。でも四十数年前の母校のカーテンの一片があるってのもうれしい気分だ。

さて、当時の校舎のカラー写真は見かけないと聞いた。もう時効とは思いますが、七十周年を寿ぐのと罪ほろぼしも兼ねて、赤い屋根の校舎の絵を寄贈することを吉川同窓会長と約束した。校長室の真上の美術部室の窓には、ちゃんと新しい白いカーテンを描いて……。



鎌高校歌のあゆみ

1955 (昭和30年)には、現校歌ができ、翌年2月8日に、横浜市紅葉坂、県立音楽堂において、華々しく「校歌発表演奏会」が行われた。

さらに、1962 (昭和37年)3月13日には、コロムビアレコードにおいて、校歌を録音し、45回転のEP盤が作製された。この盤のB面には、作詞者神保光太郎が自ら非常に気魄のこもった調子で、校歌の朗読をしているのが印象深い。また、城所校長の挨拶も入っており校歌が学校行事はもちろん、生徒の日常生活、家庭にも溶けこんで口ずさまれるように訴えている。

